

浜の活力再生プラン

1 地域水産業再生委員会

組織名	戸田地区地域水産業再生委員会
代表者名	会長（戸田漁業協同組合代表理事組合長）荒川邦夫

再生委員会の構成員	戸田漁業協同組合、戸田まき網漁業者協会 戸田底びき網組合、戸田小釣協会、沼津市
オブザーバー	静岡県

※再生委員会規約及び推進体制の分かる資料を添付すること。（資料1）

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	戸田地区（単一漁協）正組合員 213 名 海外まき網漁業（1 経営体）漁業者数 15 名 大中型まき網漁業（3 経営体）漁業者数 181 名 小型びき網漁業（8 経営体）漁業者数 26 名 沿岸漁業代表（167 経営体）漁業者数 138 名 准組合員、員外者含む
-------------------	--

2 地域の現状

（1）関連する水産業を取り巻く現状等

沼津市戸田は、静岡県伊豆半島西海岸に面し「夕映えと山海の里」とも呼ばれ、海と山に囲まれた豊かな自然と美しい景観に恵まれた漁村である。旧戸田村は平成 17 年 4 月沼津市と合併後、同市の最南端に位置し、奥座敷的な存在となっている。沿岸や漁港内は、アジ・タイ・イサギ・ムツ・メジナ・イカなど季節によって様々な魚が釣れるフィッシングポイントとしても絶好な場所でもあり、また、三方を達磨山、真城山など山々に囲まれた海の幸、山の幸に恵まれた環境にある。

当地区の主幹産業は漁業であり、江戸時代から戦後にかけてはカツオ・マグロ漁が盛んで、特に昭和 50 年代半ばまでは遠洋かつお・まぐろ漁業の一大漁業基地であった。現在はまき網漁業（アジ、サバ、イワシ、カツオ、マグロ漁）を中心に小型底びき網漁業（エビ、手長エビ、メヒカリ、ムツ、カサゴ）、一本釣りや刺網等の沿岸漁業（タイ、イセエビ、サザエ）など多岐にわたる漁業が営まれ、静岡県内でも有数の漁業地区であるが、当地区には魚市場がないため水揚げは主に、近隣の沼津港、焼津港、小川港や銚子港、三陸沿岸の市場に水揚げあるいは陸送で出荷している。

当地区の主力である大中型まき網は現在 3 船団、全体で年間 57,000 トン、日本有数の水揚げ実績を誇っており、漁業就業者も水産高校や漁業高等学園の卒業生を中心に県内外からの若い担い手が就業している。しかしながら近年、資源状況の変化等により操業場所が北上し、銚子、塩釜、気仙沼、八戸等を基地として遠方の漁場で操業を行っており、燃油高騰も影響し操業コストの増大が漁業経営を圧迫している。

また、底びき網漁業、沿岸漁業は、高齢化による漁業者の減少、次世代の担い手の不足が顕著に現れており、ピーク時には 1,000 人以上いた正組合員数も現在では 213 人となるなど漁業を取り巻く環境は厳しさを増している。

一方、まき網漁船や底びき網、沿岸漁船が漁獲した水揚物の一部は、漁協が漁船と直接取引で買い入れ、3台の移動販売車にて週末の朝市、県内3市のJA直売所出張販売を行っている。これらはいずれも消費者と対面の直接販売であり、鮮魚を中心に、地元住民や観光客に口コミ等で人気である。また、小型機船底びき網漁業で獲られる世界で1番大きい高足ガニや深海魚、駿河湾の本えび等はマスコミにも取り上げられ、地元特産品として注目が集まっている。

(2) その他の関連する現状等

当地区は三方を山で囲まれているため、昔から陸の孤島と呼ばれ、地震・津波・高潮対策や道路のインフラ整備も余り進んでおらず、自家用車で市の商業圏へは1時間、近隣の商業圏へは30分かかるのが現状である。このため、多数の従業員を雇用していた企業等が近隣に整備された工業団地へ移転し、それに伴い若年層も人口流出し、過疎化・高齢化が進んでいる。また、漁業以外の重要な主幹産業である観光業については、新鮮な魚介類を求めて旅館や民宿に多数来ていた観光客が年々減少しており、地域の魅力の発信、地域の活性化が課題となっている。

3 活性化の取組方針

(1) 基本方針

戸田漁業協同組合は、まき網漁船を用船しての改革型漁船による「もうかる漁業創設支援事業」を単協が事業実施者として行うケースとして先駆的に取り組み、3年間の事業期間を平成23年、24年の2年間で終了、成功させた。大中型まき網3船団のうち2船団は探索船兼運搬船を導入し、船団隻数の縮減による省コスト化を図るとともに、LED集魚灯や最先端の漁労機器や燃費計、燃料整流器など省エネ機器導入によるコスト削減を進めていることから、これらの取組効果等を踏まえ、残りの1船団についても今後の漁業経営の効率化について関係者で検討をおこなっています。

また、「もうかる漁業創設支援事業」の地域プロジェクトを承継して、地域活性化、魚食普及及び地産地消を目的に、地元まき網漁船、底びき網漁船から漁獲物を直接取り引きで買い入れ、安全、安心、安価をスローガンとして新鮮な魚介類の販売を継続していくこととする。また、6次産業化の礎として、3台の移動販売車による県内3市のJA直売所への出張販売の取組を継続し、駿河湾のマサバや本えびなど消費者ニーズを踏まえた魚種を積極的に提供していくこととする。

これらの取組と併せて全漁業者は、漁船燃費向上のための船底状態の改善や漁場までの減速航行を実施するほか、まき網漁業については、操業中は母港（戸田）ではなく最寄り港への停泊、洋上停泊を実施することで燃油消費の削減を図る。また、小型機船底びき網漁業は、資源保護と操業の効率化を目的として、1日の網入れ回数を6回から5回に削減するほか、魚市場の市場価格を見ながら協定休漁を設けることにより魚価単価の向上やコスト削減を図る。

さらに、一本釣りや刺網などの沿岸漁業は、鮮魚・活魚出荷の高鮮度化を図るため、漁業者それぞれで行っている魚箱や氷の工夫（活魚、活イカ用のペットボトル氷など）を統一するとともに、マダイ・ヒラメ・アワビの種苗放流や密漁等の漁場管理を継続して実施する。

(2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に対する担保措置

◆海外まき網漁業

休漁期間（入港から出港、ドック期間時の休漁日数協定）を設けての資源保護活動

◆大中型まき網漁業

T A Cによる漁獲管理

駿河湾海区操業で月1度の休漁期間（5日間）を設けての資源保護活動

◆小型機船底びき網漁業

1日の操業回数の削減による資源保護活動（駿河湾地区申合せ事項）

地域魚市場の相場状況を勘案し適切な休漁等の実施による資源保護活動（沼津地区申合せ事項）

◆沿岸漁業

港内刺網漁禁止等による資源保護（漁協内規）

港内投錨釣り禁止による磯根の保護（漁協内規）

刺網漁は月1度の休漁期間（4日間）を設けての資源保護活動（申合せ事項）

他地区漁業権内への入漁協定の締結

共同漁業権内行使規則による資源保護（戸田漁業協同組合総会）

(3) 具体的な取組内容 (毎年ごとに数値目標とともに記載)

1 年目 (平成 26 年度)

取組内容は、取組の進捗状況や得られた成果等を踏まえ必要に応じ見直すこととする。

漁業収入向上の
ための取組
(目標値 0.3%)

◆海外まき網漁業

- 焼津港に水揚げする冷凍マグロ等を漁協と直接取引し、漁協が保有する超低温冷凍庫 (-35~50℃) を活用することにより県内 3 箇所の J A 直売所や漁協直売所に積極的に漁獲物を提供する。
- 水揚げしたカツオを漁業者が県内他地区の鰹節加工業者に出荷し荒節加工 (単価向上) を行ったあと、漁協が荒節を買い取り、漁協が整備する鰹節削り機を活用して花かつおに加工し漁協名で販売するための検討を行う。

◆大中型まき網漁業

- 魚槽蓋をワタハッチ (油圧式) やステンレス魚槽に改良することにより魚槽の高保冷化による漁獲物の高品質化を図る。
- 沼津港に水揚げするアジ、サバ、カツオ、マグロ等 (雑魚含む) を漁協と直接取引し、漁協を通じて移動販売にて県内 3 箇所の J A 直売所や漁協直売所にて販売を行うため、まき網漁業者は選別の大きさをそろえ鮮魚の取扱 (製氷等) をていねいに行うこと等により鮮度保持向上を図るとともに、消費者ニーズや販売実績を踏まえた漁獲物の提供を積極的に行う。

◆小型機船底びき網漁業

- 戸田の本えびは、駿河湾の海洋深層水に育まれた幻のえびとして「しずおか食のセレクション」に認定されるほか、沼津市のふるさと納税の特産品としても人気がある。本えびの単価向上を目指し、新たに高品質化を図る工夫 (チツソ氷、シャーベット氷など)、研究を県水産技術研究所と行う。また、本えびは、鮮魚以外にも水揚げ後すぐに急速冷凍を行い、刺身や天ぷら、フライなどに手軽に調理可能な冷凍パックでの販売を行っているが、ふるさと納税の特産品などは HP 等で紹介されているため、消費者に商品の魅力が伝わるようなパッケージ等の工夫を行い、更なる販売促進に努める。
- 小型底びき網は戸田漁港で水揚げを行い、陸送で翌日沼津魚市場のセリにかけるが、戸田漁港で水揚げした漁獲物の一部を組合と直接取引し、当日中に漁協を通じて直売所や翌日の移動販売等で販売を行っている。底びき網漁業者は選別の大きさをそろえ鮮魚の取扱 (製氷等) をていねいに行うこと等により鮮度保持向上を図るとともに、消費者ニーズや販売実績を踏まえた漁獲物の提供を積極的に行う。
- 県水産技術研究所や地元の水産加工会社と連携し、底だら等の未利用魚の商品開発 (ねりもの等) に向け、原魚の提供や試作品づくりに協力する。

	<p>◆沿岸漁業</p> <p>○一本釣りや刺網の鮮魚・活魚出荷の高鮮度化を図るため、漁業者がそれぞれ行っている魚箱や温度管理の工夫（活魚イカ用のペットボトル氷の利用など）の統一化を図るため、漁業者間で出荷や漁獲物の取扱手法にかかる知識・技術を共有する。</p> <p>○漁協が毎週開催している朝市（漁協駐車場）への地魚鮮魚の出品、漁協と連携・協力して行っている真鯛、平目、アワビの種苗放流、GW、夏期期間、週末の監視船による密漁パトロール、警察と共同で実施する港内夜間密漁パトロール等の取組を継続する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組 (目標値 4%)</p>	<p>○燃油急騰による漁業コスト圧迫防止措置として、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進する。</p> <p>○洋上や漁場までの減速航行、年 1 回以上の船底状態改善を実施する。また、水抵抗の少ない（5%程度）船底塗料の導入する。</p> <p>○大中型まき網漁業について、操業船・探索船の操業中の最寄港への停泊、洋上停泊を推進し、燃油消費の削減を図る。</p> <p>○小型底びき網漁業について、操業コストと漁獲量の相対から 1 日の操業時間を短縮し、網入れ回数を 6 回から 5 回に削減する。また、市場価格を十分に勘案して適切な休漁日等を設定する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・セーフティネット構築事業 ・省燃油活動推進事業 ・沼津市水産業振興新事業 ・焼津市海外まき網漁船水揚促進支援事業 ・小川魚市場水産業振興新事業 ・沼津市種苗放流、魚食普及事業

<p>漁業収入向上のための取組 (目標値 0.5%)</p>	<p>◆海外まき網漁業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○焼津港に水揚げする冷凍マグロ等を漁協と直接取引し、漁協が保有する超低温冷凍庫（-35～50℃）を活用することにより県内3箇所のJA直売所や漁協直売所に積極的に漁獲物を提供する。 ○水揚げしたカツオを漁業者が県内他地区の鰹節加工業者に出荷し、荒節加工（単価向上）を行ったあと、漁協が荒節を買い取り、漁協が整備する鰹節削り機を活用して花かつおに加工し、試作品の販売に協力する。 <p>◆大中型まき網漁業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○魚槽蓋をワタハッチ（油圧式）やステンレス魚槽に改良することにより魚槽の高保冷化による漁獲物の高品質化を図る。 ○沼津港に水揚げするアジ、サバ、カツオ、マグロ等（雑魚含む）を漁協と直接取引し、漁協を通じて移動販売にて県内3箇所のJA直売所や、漁協直売所にて販売を行うため、まき網漁業者は選別の大きさをそろえ鮮魚の取扱（製氷等）をていねいに行うこと等により鮮度保持向上を図るとともに、消費者ニーズや販売実績を踏まえた漁獲物の提供を積極的に行う。 <p>◆小型機船底びき網漁業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○戸田の本えびは、駿河湾の海洋深層水に育まれた幻のえびとして「しずおか食のセレクション」に認定されるほか、沼津市のふるさと納税の特産品としても人気がある。本えびの単価向上を目指し、新たに高品質化を図る工夫（チッソ氷、シャーベット氷など）、研究を県水産技術研究所と行う。また、本えびは、鮮魚以外にも水揚げ後すぐに急速冷凍を行い、刺身や天ぷら等に手軽に調理可能な冷凍パックで販売促進を図るため、パッケージ等を工夫し、原魚を積極的に提供する。 ○戸田漁港に当日水揚げする漁獲物の一部を組合と直接取引し、漁協を通じて直売所や移動販売で販売を行うため、底びき網漁業者は選別の大きさをそろえ鮮魚の取扱（製氷等）をていねいに行うこと等により鮮度保持向上を図るとともに、消費者ニーズや販売実績を踏まえた漁獲物の提供を積極的に行う。 ○県水産技術研究所や地元の水産加工会社と連携し、底だら等の未利用魚の商品開発（ねりもの等）に向け、原魚の提供や試作品づくりに協力するとともに、事業化に向けた販路の検討を行う。 <p>◆沿岸漁業</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一本釣りや刺網の鮮魚・活魚出荷の高鮮度化を図るため、漁業者がそれぞれ行っている魚箱や温度管理の工夫（活魚イカ用のペットボトル氷の利用など）の統一化を図るため、漁業者間で出荷や漁獲物の取扱手法にかかる知識・技術を共有する。
------------------------------------	--

	<p>○漁協が毎週開催している朝市（漁協駐車場）への地魚鮮魚の出品、漁協と連携・協力して行っている真鯛、平目、アワビの種苗放流、GW、夏期期間、週末の監視船による密漁パトロール、警察と共同で実施する港内夜間密漁パトロール等の取組を継続する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組 (目標値 5%)</p>	<p>○燃油急騰による漁業コスト圧迫防止措置として、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進する。</p> <p>○洋上や漁場までの減速航行、年 1 回以上の船底状態改善を実施する。また、水抵抗の少ない（5%程度）船底塗料の導入する。</p> <p>○大中型まき網漁業について、操業船・探索船の操業中の最寄港への停泊、洋上停泊を推進し、燃油消費の削減を図る。</p> <p>○小型底びき網漁業について、操業コストと漁獲量の相対から 1 日の操業時間を短縮し、網入れ回数を 6 回から 5 回に削減する。また、市場価格を十分に勘案して適切な休漁日等を設定する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・セーフティネット構築事業 ・省燃油活動推進事業 ・沼津市水産業振興新事業 ・焼津市海外まき網漁船水揚促進支援事業 ・小川魚市場水産業振興新事業 ・沼津市種苗放流、魚食普及事業

漁業収入向上の
ための取組
(目標値 1%)

◆海外まき網漁業

- 焼津港に水揚げする冷凍マグロ等を漁協と直接取引し、漁協が保有する超低温冷凍庫（-35～50℃）を活用することにより県内 3 箇所の J A 直売所や漁協直売所に積極的に漁獲物を提供する。
- 水揚げしたカツオを漁業者が県内他地区の鰹節加工業者に出荷し、荒節加工（単価向上）を行ったあと、漁協が荒節を買い取り、漁協が整備する鰹節削り機を活用して花かつおに加工し、直売所等での販売に協力する。

◆大中型まき網漁業

- 魚槽蓋をワタハッチ（油圧式）やステンレス魚槽に改良することにより魚槽の高保冷化による漁獲物の高品質化を図る。
- 沼津港に水揚げするアジ、サバ、カツオ、マグロ等（雑魚含む）を漁協と直接取引し、漁協を通じて移動販売にて県内 3 箇所の J A 直売所や、漁協直売所にて販売を行うため、まき網漁業者は選別の大きさをそろえ鮮魚の取扱（製氷等）をていねいに行うこと等により鮮度保持向上を図るとともに、消費者ニーズや販売実績を踏まえた漁獲物の提供を積極的に行う。

◆小型機船底びき網漁業

- 戸田の本えびは、駿河湾の海洋深層水に育まれた幻のえびとして「しずおか食のセレクション」に認定されるほか、沼津市のふるさと納税の特産品としても人気がある。本えびの単価向上を目指し、新たに高品質化を図る工夫（チッソ氷、シャーベット氷など）、研究を県水産技術研究所と行う。また、本えびは、鮮魚以外にも水揚げ後すぐに急速冷凍を行い、刺身や天ぷら等に手軽に調理可能な冷凍パックで販売促進を図るため、パッケージ等を工夫し、原魚を積極的に提供する。
- 戸田漁港に当日水揚げする漁獲物の一部を組合と直接取引し、漁協を通じて直売所や移動販売で販売を行うため、底びき網漁業者は選別の大きさをそろえ鮮魚の取扱（製氷等）をていねいに行うこと等により鮮度保持向上を図るとともに、消費者ニーズや販売実績を踏まえた漁獲物の提供を積極的に行う。
- 県水産技術研究所や地元の水産加工会社と連携し、底だら等の未利用魚の商品開発（ねりもの等）に向け、原魚の提供を行い、直売所等で販売を行う。

◆沿岸漁業

- 一本釣りや刺網の鮮魚・活魚出荷の高鮮度化を図るため、漁業者がそれぞれ行っている魚箱や温度管理の工夫（活魚イカ用のペットボトル氷の利用など）の統一化を図るため、漁業者間で出荷や漁獲物の取扱手法にかかる知識・技術を共有する。

	<p>○漁協が毎週開催している朝市（漁協駐車場）への地魚鮮魚の出品、漁協と連携・協力して行っている真鯛、平目、アワビの種苗放流、GW、夏期期間、週末の監視船による密漁パトロール、警察と共同で実施する港内夜間密漁パトロール等の取組を継続する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組 (目標値 6%)</p>	<p>○燃油急騰による漁業コスト圧迫防止措置として、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進する。</p> <p>○洋上や漁場までの減速航行、年 1 回以上の船底状態改善を実施する。また、水抵抗の少ない（5%程度）船底塗料を導入する。</p> <p>○大中型まき網漁業について、操業船・探索船の操業中の最寄港への停泊、洋上停泊を推進し、燃油消費の削減を図る。</p> <p>○小型底びき網漁業について、操業コストと漁獲量の相対から 1 日の操業時間を短縮し、網入れ回数を 6 回から 5 回に削減する。また、市場価格を十分に勘案して適切な休漁日等を設定する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・セーフティネット構築事業 ・省燃油活動推進事業 ・沼津市水産業振興新事業 ・焼津市海外まき網漁船水揚促進支援事業 ・小川魚市場水産業振興新事業 ・沼津市種苗放流、魚食普及事業

4年目（平成29年度）

漁業収入向上の
ための取組
(目標値 1.5%)

◆海外まき網漁業

- 焼津港に水揚げする冷凍マグロ等を漁協と直接取引し、漁協が保有する超低温冷凍庫（-35～50℃）を活用することにより県内3箇所のJA直売所や漁協直売所に積極的に漁獲物を提供する。
- 水揚げしたカツオを漁業者が県内他地区の鰹節加工業者に出荷し、荒節加工（単価向上）を行ったあと、漁協が荒節を買い取り、漁協が整備する鰹節削り機を活用して花かつおに加工し、直売所等での販売に協力する。

◆大中型まき網漁業

- 魚槽蓋をワタハッチ（油圧式）やステンレス魚槽に改良することにより魚槽の高保冷化による漁獲物の高品質化を図る。
- 沼津港に水揚げするアジ、サバ、カツオ、マグロ等（雑魚含む）を漁協と直接取引し、漁協を通じて移動販売にて県内3箇所のJA直売所や、漁協直売所にて販売を行うため、まき網漁業者は選別の大きさをそろえ鮮魚の取扱（製氷等）をていねいに行うこと等により鮮度保持向上を図るとともに、消費者ニーズや販売実績を踏まえた漁獲物の提供を積極的に行う。

◆小型機船底びき網漁業

- 戸田の本えびは、駿河湾の海洋深層水に育まれた幻のえびとして「しずおか食のセレクション」に認定されるほか、沼津市のふるさと納税の特産品としても人気がある。本えびの単価向上を目指し、新たに高品質化を図る工夫（チツソ氷、シャーベット氷など）、研究を県水産技術研究所と行う。また、本えびは、鮮魚以外にも水揚げ後すぐに急速冷凍を行い、刺身や天ぷら等に手軽に調理可能な冷凍パックで販売促進を図るため、パッケージ等を工夫し、原魚を積極的に提供する。
- 戸田漁港に当日水揚げする漁獲物の一部を組合と直接取引し、漁協を通じて直売所や移動販売で販売を行うため、底びき網漁業者は選別の大きさをそろえ鮮魚の取扱（製氷等）をていねいに行うこと等により鮮度保持向上を図るとともに、消費者ニーズや販売実績を踏まえた漁獲物の提供を積極的に行う。
- 県水産技術研究所や地元の水産加工会社と連携し、底だら等の未利用魚の商品開発（ねりもの等）に向け、原魚の提供を行い、直売所等で販売を行う。

◆沿岸漁業

- 一本釣りや刺網の鮮魚・活魚出荷の高鮮度化を図るため、漁業者がそれぞれ行っている魚箱や温度管理の工夫（活魚イカ用のペットボトル氷の利用など）の統一化を図るため、漁業者間で出荷や漁獲物

	<p>の取扱手法にかかる知識・技術を共有する。</p> <p>○漁協が毎週開催している朝市（市役所駐車場）への地魚鮮魚の出品、漁協と連携・協力して行っている真鯛、平目、アワビの種苗放流、GW、夏期期間、週末の監視船による密漁パトロール、警察と共同で実施する港内夜間密漁パトロール等の取組を継続する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組 (目標値 7%)</p>	<p>○燃油急騰による漁業コスト圧迫防止措置として、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進する。</p> <p>○洋上や漁場までの減速航行、年 1 回以上の船底状態改善を実施する。また、水抵抗の少ない（5%程度）船底塗料を導入する。</p> <p>○大中型まき網漁業について、操業船・探索船の操業中の最寄港への停泊、洋上停泊を推進し、燃油消費の削減を図る。</p> <p>○小型底びき網漁業について、操業コストと漁獲量の相対から 1 日の操業時間を短縮し、網入れ回数を 6 回から 5 回に削減する。また、市場価格を十分に勘案して適切な休漁日等を設定する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・セーフティネット構築事業 ・省燃油活動推進事業 ・沼津市水産業振興新事業 ・焼津市海外まき網漁船水揚促進支援事業 ・小川魚市場水産業振興新事業 ・沼津市種苗放流、魚食普及事業

5年目（平成30年度）

最終年であり、以下の取組を引き続き行うが、目標達成を確実なものとするようプラン取組の成果を検証し必要な見直しを行うこととする。

漁業収入向上の
ための取組
(目標値2%)

◆海外まき網漁業

- 焼津港に水揚げする冷凍マグロ等を漁協と直接取引し、漁協が保有する超低温冷凍庫（-35～50℃）を活用することにより県内3箇所のJA直売所や漁協直売所に積極的に漁獲物を提供する。
- 水揚げしたカツオを漁業者が県内他地区の鰹節加工業者に出荷し、荒節加工（単価向上）を行ったあと、漁協が荒節を買い取り、漁協が整備する鰹節削り機を活用して花かつおに加工し、直売所等での販売に協力する。

◆大中型まき網漁業

- 魚槽蓋をワタハッチ（油圧式）やステンレス魚槽に改良することにより魚槽の高保冷化による漁獲物の高品質化を図る。
- 沼津港に水揚げするアジ、サバ、カツオ、マグロ等（雑魚含む）を漁協と直接取引し、漁協を通じて移動販売にて県内3箇所のJA直売所や、漁協直売所にて販売を行うため、まき網漁業者は選別の大きさをそろえ鮮魚の取扱（製氷等）をていねいに行うこと等により鮮度保持向上を図るとともに、消費者ニーズや販売実績を踏まえた漁獲物の提供を積極的に行う。

◆小型機船底びき網漁業

- 戸田の本えびは、駿河湾の海洋深層水に育まれた幻のえびとして「しずおか食のセレクション」に認定されるほか、沼津市のふるさと納税の特産品としても人気がある。本えびの単価向上を目指し、新たに高品質化を図る工夫（チツソ氷、シャーベット氷など）、研究を県水産技術研究所と行う。また、本えびは、鮮魚以外にも水揚げ後すぐに急速冷凍を行い、刺身や天ぷら等に手軽に調理可能な冷凍パックで販売促進を図るため、パッケージ等を工夫し、原魚を積極的に提供する。
- 戸田漁港に当日水揚げする漁獲物の一部を組合と直接取引し、漁協を通じて直売所や移動販売で販売を行うため、底びき網漁業者は選別の大きさをそろえ鮮魚の取扱（製氷等）をていねいに行うこと等により鮮度保持向上を図るとともに、消費者ニーズや販売実績を踏まえた漁獲物の提供を積極的に行う。
- 県水産技術研究所や地元の水産加工会社と連携し、底だら等の未利用魚の商品開発（ねりもの等）に向け、原魚の提供を行い、直売所等で販売を行う。

◆沿岸漁業

- 一本釣りや刺網の鮮魚・活魚出荷の高鮮度化を図るため、漁業者がそれぞれ行っている魚箱や温度管理の工夫（活魚イカ用のペットボ

	<p>トル氷の利用など)の統一化を図るため、漁業者間で出荷や漁獲物の取扱手法にかかる知識・技術を共有する。</p> <p>○漁協が毎週開催している朝市(市役所駐車場)への地魚鮮魚の出品、漁協と連携・協力して行っている真鯛、平目、アワビの種苗放流、GW、夏期期間、週末の監視船による密漁パトロール、警察と共同で実施する港内夜間密漁パトロール等の取組を継続する。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組 (目標値 8%)</p>	<p>○燃油急騰による漁業コスト圧迫防止措置として、漁業経営セーフティネット構築事業への加入を推進する。</p> <p>○洋上や漁場までの減速航行、年1回以上の船底状態改善を実施する。また、水抵抗の少ない(5%程度)船底塗料を導入する。</p> <p>○大中型まき網漁業について、操業船・探索船の操業中の最寄港への停泊、洋上停泊を推進し、燃油消費の削減を図る。</p> <p>○小型底びき網漁業について、操業コストと漁獲量の相対から1日の操業時間を短縮し、網入れ回数を6回から5回に削減する。また、市場価格を十分に勘案して適切な休漁日等を設定する。</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・セーフティネット構築事業 ・省燃油活動推進事業 ・沼津市水産業振興新事業 ・焼津市海外まき網漁船水揚促進支援事業 ・小川魚市場水産業振興新事業 ・沼津市種苗放流、魚食普及事業

(4) 関係機関との連携

静岡県水産技術研究所や沼津市商工会、観光協会等と積極的に連携を図る。また、特にまき網漁業については、他港へ水揚げを行っていることから、関係県・市町村の漁業協同組合及び市場関係者等と適切に連携する。

4 目標

(1) 数値目標

まき網漁業(4経営体)

<p>漁業所得の向上 %以上</p>	<p>基準年</p>	<p>平成 年～ 年平均：漁業所得 千円</p>
	<p>目標年</p>	<p>平成 年 : 漁業所得 千円</p>

小型機船底びき網漁業

<p>漁業収入の向上 %以上</p>	<p>基準年</p>	<p>平成 年～ 年平均：漁業所得 千円</p>
	<p>目標年</p>	<p>平成 年～ 年平均：漁業所得 千円</p>

沿岸漁業

<p>漁業収入の向上 %以上</p>	<p>基準年</p>	<p>平成 年：漁業所得 千円</p>
	<p>目標年</p>	<p>平成 年：漁業所得 千円</p>

(2) 上記の算出方法及びその妥当性

--

※算出の根拠及びその方法等について詳細に記載し、必要があれば資料を添付すること。

5 関連施策

※活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
漁業経営セーフティネット構築事業	同事業の活用により燃油高騰による影響を緩和し、漁業経営の安定に一役に繋がり、浜プランの効果が向上する。
省燃油活動推進事業	同事業を実施することにより、燃油高騰による影響を緩和し、漁業経営の安定に一役に繋がる。 また、漁業者自ら省エネを意識する事で、漁業コスト削減に繋がり、浜プランの効果が向上する。
沼津市水産業流通促進事業 沼津市水産業水揚促進事業 焼津市海外まき網漁船 水揚促進支援事業 小川魚市場水産業振興新事業	各事業の活用により地域市場の取扱高が伸び、地産地消、地域ブランドの発祥に繋がり、水揚げ奨励金支援により浜プランの効果が向上する。

※ 具体的な事業名が記載できない場合は、「事業名」は「未定」とし、「事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性」のみ記載する。

※ 本欄の記載により、関連施策の実施を確約するものではない。